

「連合 2023 平和行動 in 長崎」派遣団報告

～語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう～

～平和ナガサキ集会に、全国から 1,174 名が参加～



挨拶する連合清水事務局長

8月8日、「連合 2023 平和ナガサキ集会」は、長崎県立総合体育館メインアリーナを会場に、全国から1,100名を超える参加者のもと開催された。連合福島からは、派遣団として高原英二副会長を団長に9名が参加した。

集会では、地元連合長崎の高藤会長の挨拶の後、犠牲者に対し黙とうを捧げた。主催者を代表して連合清水秀行事務局長からは、本年5月に被爆地・広島で開催されたG7サミットについて触れ「核兵器廃絶は、個々の国や地域の努力だけでは達成できず、国境を越えた連携と相互理解が求められる。平和記念資料館を訪れた各国のトップリーダーは、核兵器の恐怖と悲惨さ、実相を強く胸に刻み、対話と交渉を通じて、

核兵器廃絶に向けた道を着実に歩むべきと考える」と述べた。また、「今、世界が、平和への歩みを続けることができるか否かが問われている。核兵器廃絶への道は容易ではないが、単なる理想や夢で終わらせてはならない。それは私たちの世代が達成しなければならない使命であり、次世代への責任である。」と改めて核兵器廃絶、そして世界の恒久平和の実現に向け、取り組みを進めていく決意を示した。その後、大石長崎県知事、鈴木長崎市長の来賓あいさつ、ITUC 郷野会長のあいさつのほか、被爆者の訴えとして長崎平和推進協会・山田

一美さんの78年に渡る被爆体験の記憶を交えた講和があった。さらに連合福島派遣団は長崎原爆資料館も視察し、原爆被害の悲惨さと平和への思いを新たに



連合平和ナガサキ集会会場前での派遣団

した。翌8月9日、長崎市主催の平和記念式典は台風6号の影響により、会場変更並びに参列者制限が生じた為、残念ながら参列は出来なかったが、午前11時2分には派遣団全員で犠牲者への黙とうを捧げた。

参加者からは、昨今の国際情勢により、改めて核兵器使用の可能性が高まっている。使用されれば多くの犠牲を生むだけでなく、78年たった今も苦しみは継続していることを実感し、改めて核兵器廃絶と平和への思いを強くした、との所感が寄せられた。

台風が接近する中での行動ではあったが、高原団長の統率のもと、参加者が協力し一定の成果を上げられたことに感謝申し上げる。



平和記念像前にて